

第 I 編 職域プロジェクト事業概要報告

1. 事業概要

統一認定動物看護師の養成が本格的に始まり、平成25年度から継続して取り組んできた中核的専門人材養成についても、統一認定動物看護師高位平準化コアカリキュラムに基づく教育を全国70数校ある専門学校のうち60校近くの専門学校が取り入れるなど着実に成果が上がっている。動物看護は女性の活躍の場が期待される分野であり、地域の動物病院やペット関連事業者での人材需要に応えるためには結婚・出産等を終えた女性の職場復帰を促すための教育活動(社会人の学び直し支援)が有効である。

そこで本年度事業では、統一認定動物看護師高位平準化コアカリキュラムが導入される前の動物看護師養成教育を受けた方や、トリマーやトレーナーなど関連職域の学科コースを修了し動物病院に勤務している方々などに学び直しの場を提供するためのカリキュラムを開発し、検証を行うことを目的とする。

一方で、成果報告会には毎年、全国各地から多くの専門学校関係者に参加いただいております。事業成果を活用したいとのご意見を数多くいただいております。そこで、本年度事業では、これまで開発を進めてきたコアカリキュラム及びコマシラバスを多くの専門学校等で活用していただき、教育の質向上を図る一助となることを目的として、札幌・千葉・京都・福山・宮崎にて教職員向けの研修会(指導者講習)を行う。

2. 事業実施の背景

2-1. 当該分野における人材需要等の状況、それを踏まえた事業の実施意義

ペットの存在価値も愛玩動物から家族の一員と化し、獣医療をはじめとして飼い主は家族の一員となった動物に施されるサービスに対しても、人間に対してのサービスと同様の質や価値を求めるようになって来た。さらに獣医療の向上や高品質のペットフードが充足される今、ペットの高齢化が進行しており、一般にシニアと言われている7歳以上の犬が全体の 55.3%(昨年度:51.0%)、猫が 47.4%(昨年度: 45.8%)を占め、更に、老齢と言われる 10 歳以上の犬は 29.3%(昨年度:29.0%)、猫が 31%(昨年度:28.3%)を占める(ペットフード協会 HP より)。それに伴って、動物病院の利用率も上昇している。このような背景の下、獣医療の充実が求められており近年、チーム獣医療化が目指され、チーム獣医療に臨むうえで動物看護師の高位

平準化が必携となってきた。動物看護師の資格も全国で統一化され、その受験資格は「全国共通コアカリキュラムを履修した者」と示されていることから、2014年度生より80%近くの動物看護師養成専門学校(全国75校のうち65校以上)においてコアカリキュラム教育が始まっている。

本事業では、これまでの事業で構築された動物看護師養成コアカリキュラムを実証し教育の精度向上を目指す。動物看護師の養成は40年強の歴史が有り、90%以上が女性であることから結婚出産を機に離職している者も多い。子育てが一段落した者の復帰にも役立てられるように実証講座では保育環境も整える。コアカリキュラムを履修していない現動物看護師達およびトリマーやドッグトレーナーなど健康な犬と関わる人材が病気の早期発見者となる機会が多いことから、それら動物看護師以外の動物系職業人達の学び直しにも役立てられるように実証講座にて検証し、学生のみならず、既に動物病院等の現場で活躍している社会人、復帰を目指す者、動物看護師以外の動物系職業人に対しても「動物の体についての学び(動物看護系教科)」の再教育の場として訴求することを目指しているものであり、その意義は大きいと考えている。

2-2. 取組が求められている状況、本事業により推進する必要性

例えば被毛の状態で内臓の異常、皮膚の異常、関節の痛みなど口をきけない犬や猫は健康と思われていても患っていることがあり、健康には問題ないと思われている犬や猫が利用するペットショップやペットサロンで病気を発見することが往々にしてある。獣医師が常駐しないショップやサロンではトリマーやドッグトレーナーがその病気の早期発見者となる。それらの人材の養成では動物看護の教育も行っているが、動物看護師養成コアカリキュラムと比較すると不足である。その不足を学習ユニットの学び直しで補うことでよりの確な健康管理に貢献出来るようになることが期待でき、またそれが飼い主より求められている。本事業に参加していただく方々は、動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムを作成してきた中核メンバーであり、こうしたメンバーにより、コアカリキュラムの実証講座を行うことは、動物看護師養成の高位平準化を達成させて教育の質の保証を行う上でも、また獣医療体制の高度化を図る上でも意義深い。本年度の事業では、小動物を対象とする動物病院が多数存在する「都市部」という地域性を活かし、現動物看護師の方々に役立つカリキュラムの開発と検証を行う。

2-3. 前年度までの取組概要・成果と本事業との継続性

(平成25年度事業)

・取組概要

動物看護師の資格が全国で統一され養成教育が高位平準化されたことより全国版動物看護師養成コアカリキュラムが作成された。平成25年度は動物看護師養成コアカリキュラム検証分科会にて、そのコアカリキュラムの中から「臨床動物看護学」(15 時間)と「クライアントエジュケーション」(30 時間)の2科目について、コマシラバス及び授業シート、テキストを作成し、実証講座を実施。

動物・ペット産業のマネージャー養成分科会にて、動物病院の現地調査を実施。マネージャー養成のカリキュラムについて検討。

・事業成果

「臨床動物看護学」(15 時間)と「クライアントエジュケーション」(30 時間)の2科目について、コマシラバス及び授業シートを作成した。

実証講座:「臨床動物看護学」=専門学校生対象の15時間コース、社会人(現役動物看護師)対象の15時間コースの2コースを開催。受講者アンケート等により、評価・検証を実施した。

実証講座:「クライアントエジュケーション」=専門学校生対象の30時間コース、動物看護教員対象の5時間コース(指導者向け)の2コースを開催。受講者アンケート等により、評価・検証を実施した。

テキスト:「臨床動物看護学」(受講者用と講師用)、「クライアントエジュケーション」(受講者用と講師用)の計4冊を作成した。

先進的な取り組みを行っている3箇所の動物病院の現地調査を行った。

実績報告書 2,000 部を印刷製本し、全国の動物病院、専門学校、企業・団体等に配布し、成果を広めた。

・26年度事業との継続性・関連性(成果の活用含む)

動物看護師養成コアカリキュラム検証分科会にて全国版動物看護師養成コアカリキュラムを開発・検証した成果を基に、地域ごとの「社会人や女性の学び直し教育プログラム」活用を目指して、当該職域プロジェクトを継続・発展させた新しい職域プロジェクト(大阪ペピイ動物看護専門学校代表校)を立ち上げた。

また、コンソーシアムの下で取り組んでいた関連職域調査 WG の成果を継承し今後の教育開発に繋がるエンドユーザーである飼育者の動物の専門職に対する期待調査の最終段階となるWGと、その結果も踏まえ多種の専門職を効果的に活かす職場環境に必携のマネジメン

ト能力を養成するマネージャー養成科目開発に取り組む新しい職域プロジェクトを立ち上げた。

(平成26年度事業)

・取組概要

平成 25 年度に国際動物専門学校が実施した事業を大阪ペピイ動物看護専門学校に継承していただいた。

平成 26 年度事業では、関係機関・団体が中心となって取組を進めてきた「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」を利活用し、チーム動物医療に対応できる動物看護師(中核的専門人材)の養成に役立つカリキュラムを開発し、実証講座により検証した。さらに、動物病院や、企業・団体等での利用促進のために、社会人を対象とした学習ユニットの開発と評価指標の策定に取り組んだ。

また、上記に加えて、国際動物専門学校では、コンソーシアムの下でのワーキンググループにおける平成 26 年度事業として、関係機関・団体が中心となって取組を進めてきた「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」を、動物病院や企業・団体等で積極的に活用していただくために、社会人を対象とした学習ユニット(社会人の学び直しのための教育カリキュラム)開発と評価指標の策定に取り組んだ。

・事業成果

①教職員向け実証講座(指導者講習:動物看護教員対象)

「臨床動物看護学(6時間)」を東京・札幌・仙台・大阪の4カ所で実施。

「クライアントエデュケーション(6時間)」を高松・大阪の2カ所で実施。

②コアカリキュラムに基づいたコマシラバス及びテキスト等の作成

「動物看護学」・「動物栄養学」・「院内コミュニケーション」の3科目

③社会人の学び直しのための講座の実証(現役の動物看護師対象)

「動物看護学(15時間)」、「動物栄養学(15時間)」、「院内コミュニケーション(15時間)」を実施。

④コマシラバス集を作成

・本年度事業との継続性・関連性(成果を本年度の取組にどのように活用するのか)

事業成果報告書(事業の実施内容及び分析結果)については、Web 上で公開(<http://www.iac.ac.jp/>)するとともに、印刷物(600部)を全国の動物系専門学校や各都道府県の専修学校各種学校協会、動物病院や動物医療関係の協会・団体等の関係機関に配布している。

全国70校強存在する動物看護師養成専門学校において60校を超える専門学校でコアカリキュラムを採用した教育に取り組んでいる。教育の平準化にはコマシラバスは教育の指標となることから、今年度は教員向け実証講座を実施し、カリキュラム、コマシラバスの活用のやテキストなど、平成26年度の事業成果を本年度事業に活用する予定である。一方、平成25・26年度事業における動物病院に飼い主が求めるニーズ調査(関連職域調査研究WGの成果)による動物病院の多様なサービスに対応することは、マネジメントスキル養成プログラム開発検証の成果も活かし、今後、動物看護師以外の動物系職業人も参加するチーム獣医療が効果的に展開できることが見込まれることから、それらの人に向けた動物の体(動物看護系教科)の学び直しの機会が有用と考える。

※平成26年度の成果の公開状況も記載すること(web ページのアドレスも掲載)。

※平成26年度に本委託事業を採択している場合は実績報告書(収支精算書除く)を添付すること。

※統一認定機構において受験資格である「コアカリキュラム教育実施の確認」を行った結果、コアカリキュラムを採用した動物看護師養成を学則変更を行って実施している専門学校は50校、準備中の専門学校が11校あることが確認されている(平成27年5月15日現在:統一認定機構コアカリ審査WG調査結果)。

3. 実施内容

3-1. 組織(職域プロジェクトの構成員・構成機関等)

(1) 構成機関(機関として本事業に参画する学校・企業・団体等)

構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1 学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校	全体統括	東京都
2 学校法人 宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校	研究開発	宮崎県
3 学校法人 中央工学校 中央動物専門学校	研究開発	東京都
4 学校法人 穴吹学園 専門学校穴吹動物看護カレッジ	研究開発	香川県
5 学校法人有坂中央学園 経営企画本部	研究開発	群馬県
6 動物看護師統一認定機構	評価・検証	東京都

(2) 構成員(委員)の氏名(上記(1)の機関から参画する者及び個人で本事業に参画する者等)

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
下菌 恵子	国際動物専門学校 理事長	事業責任者	東京都
酒井 健夫	(公社)日本獣医師会 副会長	実施委員会/ 看護概論WG委員	東京都
佐々木 伸雄	動物看護師統一認定機構 機構長	実施委員会/ 看護概論WG委員	東京都
原 大二郎	(公社)日本動物病院協会 副会長	実施委員会 委員	愛知県
坂元 祥彦	宮崎ペットワールド専門学校 校長	実施委員会/ 看護概論WG委員	宮崎県
坂本 敏	中央動物専門学校 校長	実施委員会 委員	東京都
山下 真理子	国際動物専門学校 教育担当顧問	実施委員会/ WGリーダー	東京都
荒岡 杉	穴吹動物看護カレッジ専門学校 副校長	実施委員会/ コアカリWG委員	香川県
若松 あゆみ	宮崎ペットワールド専門学校 教師	実施委員会/コア カリWG/看護概 論WG委員	宮崎県

左向 敏紀	日本獣医生命科学大学 教授	実施委員会／看護概論WG／疾病看護WG委員	東京都
八木 信幸	学校法人有坂中央学園 経営企画本部	実施委員会 委員	群馬県
石橋 妙子	大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長	コアカリ WG 委員	大阪府
関 智恵子	大阪 ECO 動物海洋専門学校	コアカリ WG 委員	大阪府
門田 英敏	北海道エコ・動物自然専門学校 学科長	コアカリ WG 委員	北海道
山下 由理	国際動物専門学校 非常勤講師:認定動物看護師	コアカリ WG／看護概論WG委員	東京都
山口 千津子	公益社団法人日本動物福祉協会 顧問	コアカリ WG 委員	神奈川県
横山 晴美	名古屋コミュニケーションアート専門学校 副校長	看護概論 WG委員	愛知県
森谷 直樹	国際動物専門学校 非常勤講師:獣医師	看護概論 WG委員	東京都
伊東 彰仁	イトウペットクリニック 院長	看護概論 WG委員	千葉県
河南 圭子	国際動物専門学校 非常勤講師:獣医師	看護概論 WG委員	埼玉県
柴内 裕子	赤坂動物病院 顧問	看護概論 WG委員	東京都
小嶋 佳彦	小島動物病院アニマルウェルネスセンター 院長	看護概論 WG委員	新潟県
皆上 大吾	日本獣医生命科学大学	看護概論 WG委員	東京都
余戸 拓也	日本獣医生命科学大学	看護概論 WG委員	東京都
藤田 道郎	日本獣医生命科学大学	看護概論 WG委員	東京都
百田 豊	日本獣医生命科学大学	看護概論 WG委員	東京都
柄本 浩一	えのもと動物病院 院長	看護概論 WG委員	北海道
小林 孝之	アニマルクリニックこばやし 院長	看護概論 WG委員	埼玉県
藤田 桂一	フジタ動物病院 院長	看護概論 WG委員	埼玉県
小暮 一雄	所沢愛犬病院 院長	看護概論 WG委員	埼玉県

(2)－①実施委員会(構成員(委員)の氏名(上記(2)の者うち本委員会構成員))

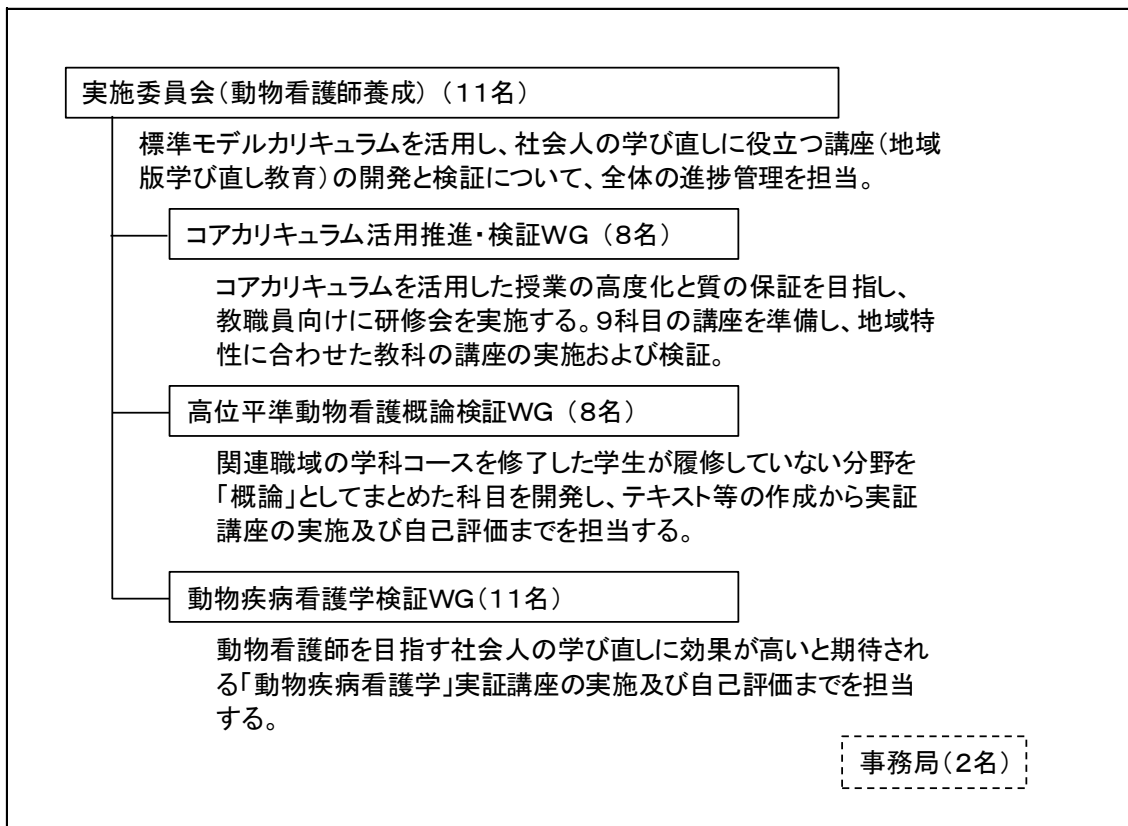
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
下藪 恵子	国際動物専門学校 理事長	事業実施責任者	東京都
酒井 健夫	(公社)日本獣医師会 副会長	評価・検証	東京都
佐々木 伸雄	動物看護師統一認定機構 機構長	評価・検証	東京都
原 大二郎	(公社)日本動物病院協会 副会長	評価・検証	愛知県
坂元 祥彦	宮崎ペットワールド専門学校 校長	評価・検証	宮崎県
坂本 敏	中央動物専門学校 校長	評価・検証	東京都
山下 真理子	国際動物専門学校 教育担当顧問	研究開発	東京都
荒岡 杉	穴吹動物看護カレッジ専門学校 副校長	研究開発	香川県
若松 あゆみ	宮崎ペットワールド専門学校 教師	研究開発	宮崎県
左向 敏紀	日本獣医生命科学大学 教授	研究開発	東京都
八木 信幸	学校法人有坂中央学園 経営企画本部	評価・検証	群馬県

(3) 下部組織

名称(コアカリキュラム活用推進・検証WG)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
山下 真理子	国際動物専門学校 教育担当顧問	WGリーダー	東京都
荒岡 杉	穴吹動物看護カレッジ専門学校 副校長	研究開発	香川県
若松 あゆみ	宮崎ペットワールド専門学校 教師	研究開発	宮崎県
石橋 妙子	大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長	研究開発	大阪府
関 智恵子	大阪 ECO 動物海洋専門学校	研究開発	大阪府
門田 英敏	北海道エコ・動物自然専門学校 獣医師	研究開発	北海道
山下 由理	国際動物専門学校 非常勤講師:認定動物看護師	講師	東京都

山口 千津子	公益社団法人日本動物福祉協会 顧問	講師	神奈川県
名称(高位平準動物看護概論検証WG)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
山下 真理子	国際動物専門学校 教育担当顧問	WGリーダー	東京都
横山 晴美	名古屋コミュニケーションアート専門学校 副校長	研究開発	愛知県
森谷 直樹	国際動物専門学校 非常勤講師:獣医師	講師	東京都
伊東 彰仁	イトウペットクリニック 院長	講師	千葉県
河南 圭子	国際動物専門学校 非常勤講師:獣医師	講師	埼玉県
柴内 裕子	赤坂動物病院 顧問	講師	東京都
山本 昌美	日本獣医生命科学大学	講師	東京都
山下 由理	国際動物専門学校 非常勤講師:認定動物看護師	講師	東京都
名称(動物疾病看護学検証WG)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
山下 真理子	国際動物専門学校 教育担当顧問	WGリーダー	東京都
左向 敏紀	日本獣医生命科学大学 教授	研究開発	東京都
小嶋 佳彦	小島動物病院アニマルウェルネスセンター 院長	評価・検証	新潟県
皆上 大吾	日本獣医生命科学大学	講師	東京都
余戸 拓也	日本獣医生命科学大学	講師	東京都
藤田 道郎	日本獣医生命科学大学	講師	東京都
百田 豊	日本獣医生命科学大学	講師	東京都
柄本 浩一	えのもと動物病院 院長	講師	北海道
小林 孝之	アニマルクリニックこぼやし 院長	講師	埼玉県
藤田 桂一	フジタ動物病院 院長	講師	埼玉県
小暮 一雄	所沢愛犬病院 院長	講師	埼玉県

3-2. 事業の実施体制



3-3. 事業実施スケジュール

事業項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
実施委員会			●				●	●
コアカリキュラム活用推進・検証 WG			●				●	
高位平準動物看護検証 WG	●							
動物疾病看護学検証 WG		●		●				
コアカリキュラム実証講座		●		●	●	●		
モデルユニット実証講座								

- 3-4. コアカリキュラム活用推進のための教職員向け研修会開催
 - 3-5. 「高位平準動物看護概論」科目の開発と検証
 - 3-6. 社会人の学び直しに向けた「動物疾病看護学」の検証
 - 4-1. コアカリキュラム活用推進のための教職員向け研修会実施記録
 - 4-2. 「高位平準動物看護概論」実証講座実施記録
 - 4-3. 「動物疾病看護学」実証講座実施記録
5. 総括と今後の課題